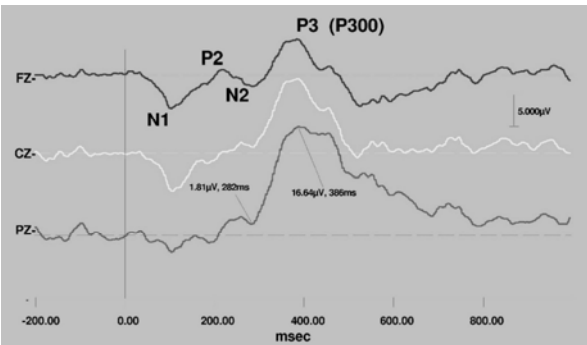


7

体性感覚誘発電位・事象関連電位(ERP)



8

感覚が意識化されるまでの遅延

大脳皮質を刺激すると、「手を触られているように、意識を感じる」。

この刺激時間が短すぎると、意識されない。
実際、500 msec (0.5秒)という時間が必要

9

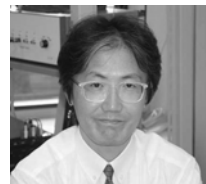
頭の中での、選及効果

意識できるには、0.5秒かかるが、
即時に意識したように「感じる」

=> 脳の中で、選及する
「風袋」を引く? 逆回しする?

10

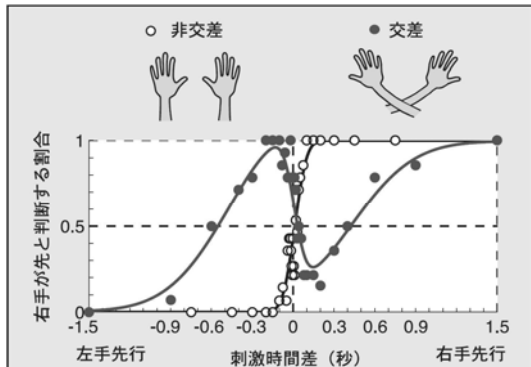
左右の時間差の判断



北澤 茂 (順天堂)

11

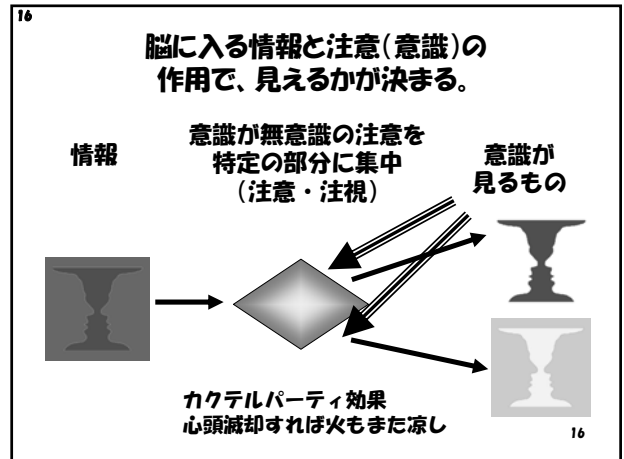
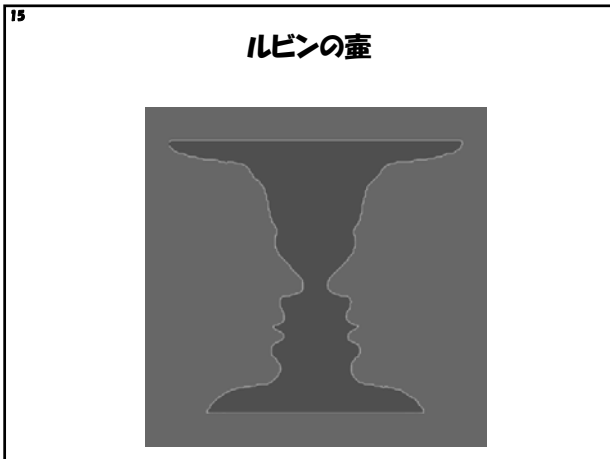
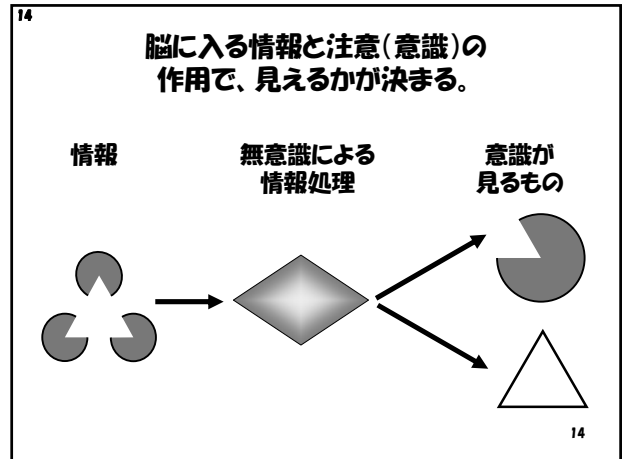
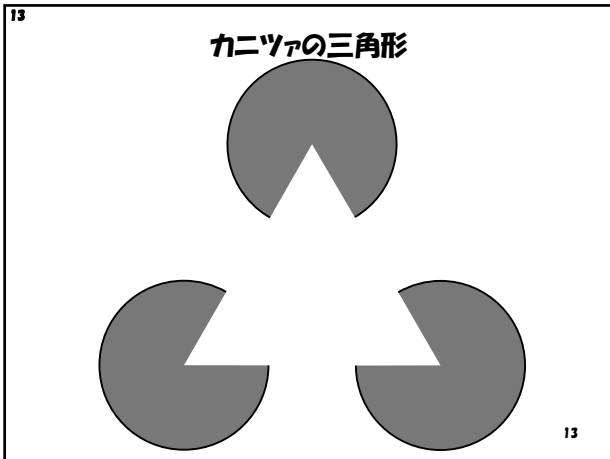
手を交差させるだけで判断ミスする



12

意識化するために情報処理が必要

外部情報と異なるものが
別の情報とともに処理された後に
「意識」される



17

2. 一部の情報の意識化

多くの情報を、意識化しないことが重要
(注意を払う、アウェアネス)
=>カクテルパーティ効果
でも、失ったものもある=カレンダー記憶

アスペルガー症候群・サバン症候群
=>カレンダー記憶に優れる
エピソード記憶が苦手

18

ゆっくりていねいにつなごう

発達障害当事者研究

熊谷さん

あややさん

医学書院

あややさんの内面から学ぶこと

以下のようなことを、普通は「意識できない」

1. 感覚飽和、優柔不断(首都高) 多くの感覚入力・内部入力、さまざまな「潜在的」欲求
2. フラッシュバック 脳内では、記憶が、何度も再現されている
3. したい性=アフォーダンス 内部情報だと感じていることが、実は外部情報由来
4. 夢侵入 夢と現実の区別を無意識で行う
5. ほどける自己像 自己が他者との関わりで立ち上がる

夢と現実の区別

テカルトが言うように、基本的には不可能

アスペルガー、ナルコレプシー、意識障害性疾患、解離症状などで、実際、区別ができなくなる。

記憶の中での変化も同じ

=> 意識を持つから???

無意識の情報処理

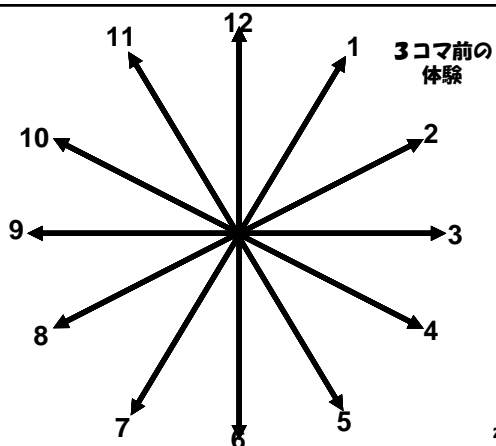
意識は、多くを捨てる

3. リベットの実験

時計の針が回転します。

リラックスして、「何も考えないで」見ていて下さい。針の回転とは関係なく、好きな時間に、ボタンを押して下さい。このとき「よ〜いドン」というように、身構えてから押すのではなく、リラックスして、別のことでも考えながら、思いついたら、なるべく早く押して下さい。

その時、針がどこにあったかも、覚えておいて下さい。



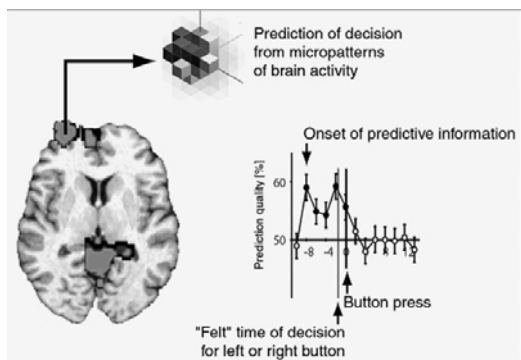
2008年の論文

文字が次々に現れます。

リラックスして、好きな瞬間に、右か左の好きなボタンを押して下さい。あらかじめ右か左かを決めないで、押そうと思った時に決めて下さい。どの文字が出ていたか、覚えて下さい。

25

2008年 Nature Neuroscience の論文



26

行為決定も無意識に進む部分がある

しかし、無意識であるからと言って
自由がないわけではない

27

4. 行為をどのようにとらえるか？

基本的には、ある一点で、何の前提もなく始まったものと考えすることはできない。

その点で、リベットの実験が、自由意志の存在を排除したという表現は、できない。

しかし、現実的(素朴心理学的?)には、意識に上ったことで、「行為」とみなす。(行為であるかどうかは、「理由を聞けばわかる」)

28

行為の定義・成因

行為とは、「なぜそれをするか」と問われて、答えられる行動を意味する。

坂井による行為の成因

外部要因：認知的に意識できる

内部要因：認知的に意識できる

伏線：意識できない、情動要素を含む

ノイズ：予測不可能な要素

29

時間軸に沿った行為の選択肢と自由

「自由意志」による選択が行われる時には、

1. まず、複数の選択肢が存在することを意識できる必要がある。

2. そして、ある選択肢をした後、別の選択肢を選ぶことができたこと、回顧的に意識できる必要がある。これは満足と後悔の両者をもたらす。

回顧的な判断は、後付け的な理由付けの根拠にもなる。

30

行為に対する責任

人を殺す行為

: 殺そうと思って殺したらのなら、全ては同じ
…では、ない。

: 法律的にも、情状として、「意識化・言語化」される部分は、酌量される

: 意識化できない部分について、「しかたない」で良いのだろうか？

31

5. 決定論的世界における「意図」

行為は、決定論的に起きているとしても、意識できる「意図を知ること」には、意味がある。
 全く同じ状況でも、それまでの過程の「意図」によって、その後の歴史に影響を与える。
 =事後確率、モンティホール問題でのルール

過去の意図が影響を与えない場合でも、現在の状況を「意図」のレベルで解釈する必要性がある＝ライフゲーム(テネットの例)

32

6. 無意識・潜在意識・前意識

1. 潜在的知識＝客観＝第三者にはわかる
 顕在的知識＝主観＝意識
 2. 暗黙知＝知識としては存在するが、
 普通は顕在化できないレベル
 3. 意識的判断＝顕在化できる次元
 しかし、顕在意識に加えて
 暗黙知や、情動が重要
- ・・・潜在的な部分を、何らかの努力・介入で、
 変える・顕在化することは、可能なのか？

33

意識下・前意識レベルの重要性

潜在的にコントロール(洗脳)されているのなら、自由とは言えない。＝ニューロマーケティング

潜在レベルを、知ることの重要性。

34

マクドの賢い客(下條氏の著書より)

店側の意図＝客の回転を速めたい。
 しかし、あからさまに追い出されたくない
 戦略：潜在的な誘導をかける。
 => イスを堅くして長居させない。

客側の対抗策：座布団を持って行く。
 潜在的に追い出されることは、なくなる。
 自分の意図を完遂できる

35

7. 意識に上るとはどういうことか

暫定まとめ
 意識は、外部情報や内部情報が脳内の情報処理によって「加工」されて作られるモノ。
 その処理過程は、ほぼ無意識に進められるが、意識による介入もある。その結果、最初の情報は変容し、また、多くの情報が「意識化」されないうで、捨てられたり、残されたりする。
 それらの過程を、意図的に意識化することは、完全にはできない(一部は可能?)

36

「わたし＝意志・意図」との関係

「自由」は、意識化された意志決定に対して、別の選択がありえたと感じられる時に、立ち現れるもので、「強制」と時間軸的に相補的である。つまり、強制された状況の否定形として存在しているのではないか？
 この選択を意識して振り返る時に、選択した主体としての「私」も立ち現れる。
 前意識的意志決定過程を意識化したものという見方において、「自己意識」は、意図的決定を映し出していると考えられる。